

ルーセントカラー

Lucent Color[®]

for floor

施工要領書



ヤブ原産業株式会社
YABUHARA Industry CO.,LTD

〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷 546

TEL 048-297-4111

1. 下地について

新設のコンクリートは 14 日間以上、モルタルは 7 日間以上の乾燥期間をおいてください。または含水率が 10% 未満になるまで乾燥させてください。
コンクリート下地の油脂類はシンナーなどで完全に脱脂してください。
塵埃、土砂などは清掃により除去してください。
下地のクラック・汚れ・補修跡等は、ルーセントカラーでは隠れずそのまま仕上がりに現れます。
下地によって仕上がりの色調や濃淡に差が出ます。吸い込みの多い下地ほど、着色性が良くなります。
樹脂モルタル下地は吸込みが悪いため、事前にテスト施工を行い仕上がりを確認してください。

2. 施工上の注意

気温 5℃ 以下、36℃ 以上、湿度 85% 以上での施工は避けてください。
下地は十分に乾燥させてください。
トップコートは艶消し成分が沈殿しないように施工中も十分攪拌してください。
施工後 12 時間以上降雨や水濡れなど水分に合わないよう注意してください。
施工環境が高温や屋外の場合、トップコートの乾燥が早くなり塗布ムラ(塗り継ぎ等)が発生する可能性があります。

3. 使用する道具

ルーセントカラー for floor	中毛ローラー (マイクロファイバーローラー推奨)
手袋	刷毛
バケツ	エアレスまたはスプレーガン (吹付施工の場合)
ポリッシャーまたはサンドペーパー	養生材 (必要に応じて)
掃除機	

4. 工程表

工程	材料名	使用量 ※1 (g / m ²)	施工器具	工程間隔 ※2 (時間)
研磨・清掃	—	—	※3 ポリッシャー 掃除機	—
下塗り	プライマー	100~130	ウールローラー ※4 刷毛	1.0~
上塗り 1回目	トップコート + 専用トナー ※5	35~45	ウールローラー ※4 刷毛	1.0~ ※6
ノンスリップ材 ※7 散布	ノンスリップ材	25	専用散布器	1.0~
上塗り 2回目	トップコート + 専用トナー ※5	20~30	ウールローラー ※4 刷毛	歩行のみ 12~ 設備設置等 72~

注：
※1 使用量は下地の状態によって大きく変動するため、新設で健全なコンクリート下地を研磨した時の目安となります
※2 次工程への養生時間は施工環境 (温度、湿度、日射) によって変わるため、気温 23℃ 時の目安となります
※3 サンドペーパーでも可
※4 エアレスまたはスプレーガンでも施工可能です
※5 クリヤー仕様の場合はトナーは付属していません
※6 ノンスリップ仕様の場合は、工程間隔を空けずにノンスリップ材を散布してください
※7 ノンスリップ材はオプションとなります

5. 施工方法

5-1 研磨・清掃

ポリッシャー、サンドペーパーを使用し、施工面の研磨及び脆弱部分を除去します。

発生した粉塵は、掃除機等で清掃します。

施工のポイント

ポリッシャーのバッド： 黒を推奨

サンドペーパーの番手： #150 を推奨

レイタンスが残っていると密着が悪くなり、剥がれの原因となりますのでご注意ください。



5-2 下塗り

プライマーをウールローラー、刷毛で 100 g / m²以上塗布します。
プライマーは乾燥する前に塗り重ねても問題ありません。

塗布後は約 1 時間以上（23℃時）乾燥させます。

施工のポイント

プライマーの液だまりがないように塗布してください。

下地に吸込みムラがある場合は、再度プライマーを塗布してください。

噴霧器を仕様する場合は、噴霧後ただちにローラーで均一に塗り広げてください。

プライマーの塗布量を守って塗布してください。塗布量が不足していると、ローラー目や斑点が残る可能性があります。



5-3 上塗り（1 回目）

下塗りが乾燥したのを確認後、上塗りを行います。

トナー容器をよく攪拌し、沈殿している顔料を分散させます。（クリヤー仕上げの場合は不要です）

トップコートにトナーを投入してよく攪拌します。（クリヤーの場合もトップコートを攪拌します）

トナーを混合したトップコートをウールローラー、刷毛または、噴霧器で 35 ～ 45 g / m²塗布します。



施工のポイント

トップコートの容器をよく攪拌したのち、泡が消えるのを待ってから塗装してください。

泡が発生した状態で使用すると、仕上がりに影響する可能性があります。

ローラーに含む材料は垂れない程度にたっぷりと含ませてください。

ローラーに含まれる材料が少ないと、ローラー目の跡や気泡による斑点が発生しやすくなります。

トップコートの液だまりがないように塗布してください。

乾燥後に重ね塗りを行った箇所は他より色が濃く仕上がるので注意してください。

噴霧器を使用する場合は、噴霧後ただちにローラーで均一に塗り広げてください。

長柄を使用する際は特に、ローラーが下地に設置する面において均等な力加わるようにして、塗布量を一定にするようにしてください。

5-4 ノンスリップ仕様の場合

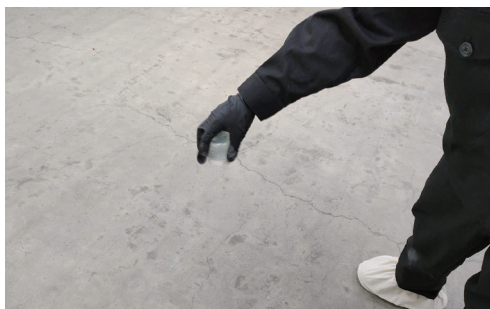
上塗り(1 回目)直後にノンスリップ材を散布します。

専用散布器にノンスリップ材を入れて約 25g/m²散布します。

上塗りが乾いてしまうと、ノンスリップ材を固定できなくなるため、素早く散布してください。

専用散布器からのノンスリップ材の出方を確認して散布してください。
急に傾けますと多量に出る恐れがあります。

散布する際は、円を書くように均一に散布してください。



5-5 上塗り（2 回目）

1 回目の塗装が乾燥したのを確認してから、2 回目の上塗りをウールローラー・刷毛または、噴霧器で 20 ～ 30 g / m²塗布します。
塗布する前に、残ったトップコートには艶消し剤・顔料が沈殿するのでよく攪拌します。

2 回塗りで発色が足りない場合は、お好みの色の濃さになるまで塗り重ねてください。

最終養生は、歩行する場合は約 12 時間以上（23℃）、什器や設備等の乗入れや設置を行う場合は 4 日目以降（23℃）としてください。

施工のポイント

上塗りの 2 回目以降はローラーをよく絞って塗布してください。塗布量が多いと、顔料の偏りに起因するまだら模様が発生する可能性があります。

トップコートの液だまりがないように塗布してください。

乾燥後に重ね塗りを行った箇所は他より色が濃く仕上がるので注意してください。

噴霧器を使用する場合は、噴霧後ただちにローラーで均一に塗り広げてください。

塗り継ぎが出てしまったら・・・

1 回目のトップコート塗布後に塗り継ぎが出てしまった場合、2 回目の塗布時にローラーをランダムに転がして塗り広げることで、ぼかすことが可能です。

5-6 端部処理

端部の処理は最後に行います。

ローラー塗りを行った後に、同じ濃さになるように刷毛で仕上げます。

刷毛をよく絞り、材料を含ませる量を少なめにして塗り重ねていきます。

施工のポイント

端部処理を先に行うと、ローラー塗りとの境目がくっきりと表れてしまうので、必ず最後に行ってください。

乾燥すると色が濃く仕上がりますので、乾燥させながら仕上がりの色を調整してください。

ローラー塗りとの境目も色が重なると濃くなりますので、塗り継ぎ部分をぼかすように処理をしながら塗布してください。

6. 使用上の注意

傷が付きますので、重量物や鋭利な物を引きずったり落下させないでください。

テープ類は塗膜が剥がれる可能性があるので貼らないでください。

※テープを貼る必要がある場合は弱粘着性のテープを使用し、慎重に剥がしてください。

毛染め液やアルコール、薬品等をこぼした時はシミが残る場合があります。

色落ちの原因となるため、椅子の足先はカバー等を取り付けてください。

劣化や剥離の原因となるため、熱湯・蒸気・高熱を直接当てないでください。

タイヤの乗り入れは塗膜が剥離する恐れがありますので避けてください。



テープによる剥がれ



タイヤによる剥がれ



椅子の引きずりによる剥がれ

7. 清掃について

油污等では中性または弱アルカリ性洗剤で拭き取ってください。

漂白剤・溶剤・ポリッシャーでの清掃は剥離の原因となるため避けてください。

ワックス掛けをする場合は、水性樹脂ワックスを使用して下さい。ただしワックス塗布後、ルーセントカラーの再塗装はできません。

8. タッチアップについて

傷付いた箇所、剥がれた箇所はトナーを添加したトップコートを使い補修できます。

補修箇所とその周辺をサンドペーパーで擦り、清掃します。

補修箇所にトナーを添加したトップコートを刷毛でタッチアップし、余剰分をウエスでふき取りながら、周辺をぼかす様に仕上げます。

仕上がり濃さを確認し、薄ければタッチアップ、ふき取りを繰り返します。

全体を再塗装する場合は清掃後、トップコートを塗装してください。

詳しくは弊社 HP のメンテナンス動画をご参照ください。